

Arterial Switch Operation With and Without Coronary Relocation for Intramural Coronary Arteries

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 腰山, 宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032081

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2947 号	氏 名	腰 山 宏
審 査 委 員 会	主 査 教 授	萩原誠久	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>動脈スイッチ手術は大血管転位症に対する標準術式であり、良好な成績を示している。本研究では、冠動脈を切り取らず、肺動脈と冠動脈の間に自己大動脈壁を用いた血流トンネルを作成することにより動脈スイッチ手術を行う術式に関して有用性を検討した。対象は、大血管転位症に対して動脈スイッチ手術が施行された 551 例中、壁内走行冠状動脈を呈した 15 例である。院内死亡は 3 例であった。遠隔死亡は 1 例であり、原因は心不全であった。平均観察期間は 20.6 ± 3.6 年で、術後遠隔期に行った冠動脈検査で、7 例では明らかな狭窄所見を認めなかった。今回の検討結果から、抗血栓性、トンネル部の成長という観点から自己大動脈壁を用いる術式が有効と考えられた。</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			